

仙台市太白山自然観察の森 情報誌2026年3月号

森のおくりもの 3

NO.414 The Gift from Woods

ぐんぐん育つかたくりの蕾



観察の森で春に咲くカタクリは人気があり、4月に見頃を迎えます。開花の早い株では3月中旬から下旬に花が咲き始め、土から顔を出す新芽の色はエビ茶色！蕾はチューリップ似の形！気温は例年より高いようなので、開花は早まるかもしれません。3月はニョキッと生えたカタクリの新芽を探しながら、春の訪れを身近に感じてみませんか。

【館長：佐藤由美】

『立つ鳥跡を濁さず（たつとりあとをにごさず）』

3月は年度末で節目となり、2月頃から卒業や転勤・退職の話題が増える時期です。その頃よく耳にするのが、「立つ鳥跡を濁さず」という言葉。その場を離れる際に周囲へ迷惑をかけず、引き際を美しく飾るべきだという意味で使われ、「立ち去るものは、見苦しくないようきれいに後始末をするべき」という教訓です。水鳥が飛び立った後、水面が澄んでいる様子が由来とされます。

鳥というのは、冬に渡って来た白鳥や雁などの渡り鳥のことを指していて、2月中旬くらいから北方の繁殖地へ戻る北帰行の時期と重なり、季節感のある言葉でこの時期にちょうどいいと思いました。しかし、腑に落ちないのが漢字の意味が合っていないことです。誤用かと思い調べると、「立つを経つや発つに、跡を後にしないこと」という注釈があるので間違いではありませんでした。それと、白鳥や雁、鴨などは、飛び立つときにバシャバシャ水面を蹴り、水飛沫で水面が荒れるので釈然としません。

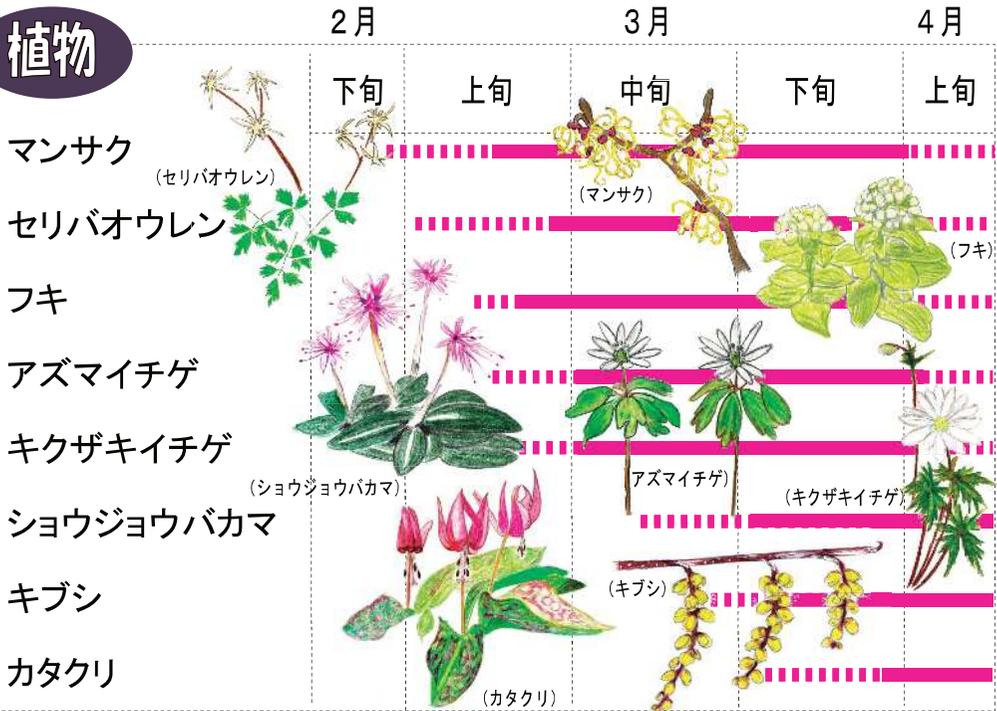
もしかしたら使っているうちに解釈が変わってしまったのではと思い、調べてみました。ここからは、調べたことを基に私が想像して勝手に考えたことを述べます。由来は戦国時代～安土桃山時代の頃、古くから使われている「鷺はたちての跡濁さぬ」ということわざのようです。このときの鳥は、サギを指していて、細く長い脚で水辺に立ち、垂直に跳ね上がり飛んでいきます。足が細いので、水面から足を抜く際に他の水鳥と比べて水面に跡が残らないのでしょう。戦国の世なのでいつ死ぬかわからない状況から、死んでも後悔を残さないようにしたい、残された者が自分の影響で困らぬよう、無事で生きて行って欲しい、死を覚悟しての思いなのではと考察しました。その後時代とともに変化して、立つ鳥というのは、白鳥や鴨のように横たわる感じではなく、水面に立っているサギの姿を表し、鷺という言葉を使わず表現したのではと考えました。

短い言葉に想いを込めて表現していて、なんて素晴らしい観察力と表現力なのだろうと感じました。自分の想像で違うかもしれませんが、この言葉を軽々と口にすることはできないと思ってしまいました。【レンジャー：新田隆一】



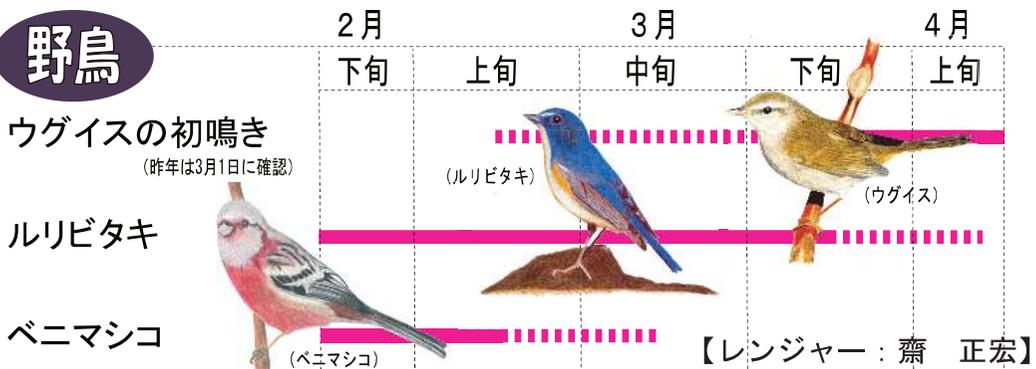
3月の生物ごよみ

植物



日差しに春の訪れを感じる季節となりました。今冬のバードテーブルを振り返ると、昨年大群で訪れたアトリやカシラダカの姿がほとんど見られず、顔ぶれの変化に驚かされたシーズンでした。今冬の飛来が少ない理由としては、北の繁殖地での個体数の変化や渡りのルートが例年と異なり、別の地域を越冬地に選んだという可能性が考えられます。そんな中、存在感を示したのがスズメたち。冬の糧を求めて集まる賑やかな姿は、観察の目を楽しませてくれました。山ではマンサクが黄金色の花を広げ、セリバオウレンも咲き始めています。野鳥たちの去り際と、植物の芽吹き。季節のバトンタッチを静かに見守りたいものです。

野鳥



【レンジャー：齋 正宏】

森の「あれこれ」



「エナガのごちそう」



エナガは観察の森では一年中見られる小鳥です。北海道のシマエナガはあまりにも有名ですが、もちろん本州のエナガもすごくかわいいのでファンの方も多いでしょう。

さて10羽ほどのエナガの群れを観察していたところ、何羽ものエナガが樹の幹をつつくように3分…5分…あれ？10分近く留まっています。いつもはエサを探し食べてはすぐに別の場所へ移動して行きますが、、よく見ると樹皮が濡れそこに何度もくちばしをつけています。幹に止まったり、体をまげたり、ホバリング（翼をバタバタして空中停止）したりとなかなか離れません。



実はエナガたち、この樹の樹液をなめています。樹の正体はイタヤカエデ。秋までに光合成で作った栄養を糖分に変え樹液を凍りにくくして寒い冬を乗り越えますが、甘くなった樹液が傷ついた幹からしみだし、エナガのごちそうになったのでしょうか。食べ物の少ない冬の大切な栄養源です。



3月になる頃にはエナガたちは群れを解消しカップルになって子育ての真っ最中です。季節はめぐり、生きものたちはまた新しい姿を見せてくれます。

【レンジャー：木田秀幸】

森は生きている



1



2

おい！なに見てんだ！と睨んでいるのが①ルリビタキ②ジョウビタキでした。③目玉が特徴のイダテンチャタテムシ。④木の幹に擬態しています、冬に見られるキノカワガという蛾です。⑤野鳥のモズが捕らえた獲物を木の枝などに刺す、独特な習性があります、「モズのはやにえ」と言われますが、刺しているのはムカデのようです。



3



4



5

少しずつ陽が暖くなり、春が近付いてるのを感じます、この「森は生きている」のコーナーも今月で2年が経ちます、スタート時はいろいろ文章に悩んだり、子供たちにも分かりやすくするために写真を多くしようかとか、いろいろ考えたりもしましたが、4月からは新たに題名を「いきものの森」として変更し、さらに森の生き物たちの様子を紹介したいと思います。

【レンジャー：菅井 潤】



イベント & お知らせ

◆「春をさがして～観察の森一周ウォーク」

- ・ 3月21日（土） 10:00～12:00
- 【対象】小学生以上 10人（中学生以下は保護者と参加）
- 【申込み】Eメールにて3月10日（火）必着で（抽選）

◆「早春の植物かんさつ会」

- ・ 3月28日（土） 10:00～11:30
- 【対象】小学生以上 20人（中学生以下は保護者と参加）
- 【申込み】Eメールにて3月14日（土）必着で（抽選）

◆「おはよう野鳥かんさつ」

- ・ 4月11日（土） 6:30～8:00
- 【対象】どなたでも 20人（中学生以下は保護者と参加）
- 【申込み】Eメールにて3月27日（金）必着で（抽選）

◆「春の森の草花あそび散歩」

- ・ 4月19日（日） 10:00～12:00
- 【対象】小学生以上 10人（中学生以下は保護者と参加）
- 【申込み】Eメールにて4月6日（月）必着で（抽選）

※申込み専用メールアドレス taihaku@sendai-park.or.jp 詳細はこのQRコードを読み取り



毎週日曜は 『ガイドウォーク』の日！

開催日：**1日,8日,15日,22日,29日**

開催時間：**10:00～11:30**

※日曜定例ガイドウォークは**3月で終了**します

申し込み不要。時間までにセンター前へお集まりください。

3月の休館日

2日、9日、16日、
23日、30日（月曜日）

※月曜日が祝祭日の場合、翌日以降の平日が休館

宮城交通バスの場合

- ① 仙台駅 乗車時間 約40分
- ② 長町駅東口 乗車時間 約30分
- ③ 八木山動物公園駅 乗車時間 約10分

【行先】①②③ 「太白団地經由山田自由ヶ丘車庫行」乗車
 (※③のみ乗車可「太白団地 山田自由ヶ丘經由仙台南ニュータウン行」)
 いずれも 公営アパート前 下車→ 徒歩15分

お車の場合

国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ。
 道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。徒歩5分でセンター

観察の森へのアクセス

自然観察の森の最新情報、
「森のおくりもの」バックナンバーは
Webで！

2026年 3月号
 発行：(公財)仙台市公園緑地協会
 編集：仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター
 〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森東36-63
 TEL: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133

「仙台市公園緑地協会」URL: <https://sendai-green-association-jp/green/taihakusan/>